

市民の皆さんによる活動



蒲郡ビーチクリーン

海に行ったとき、ごみがすごく気になったんですよ。でも、1人で拾うのってやっぱり難しくて。だったら、自分たちで拾いやすい環境をつくってみようかなって思ったのがきっかけです。

令和3年に始めたこの活動は、私たち4人を中心に月1回ペースで続けています。場所は主に西浦エリア。1回で20袋くらいごみが集まります。普段は20~30人くらいで活動していますが、飛び入りで参加してくれる方も時々いますよ。

それぞれはじまりのきっかけは少しずつ違っていて、「料理教室をやっていて、魚のマイクロプラスチック汚染が気になって」という人もいれば、「他市ではビーチクリーンをやっているのに、蒲郡にはなかったから、自分たちでやろうと思った」という人もいて。そんな小さな気づきが重なって、今の形になりました。

『きれいな海を、子どもたちに残したい』

活動を通じて知ったのは、海に落ちているごみのほとんどが、実は海から出たものじゃないってこと。海岸にあるごみの8割は、道路やまちの中から流れてきたものなんです。だから、ごみを拾うことも大切だけど、それ以前に“ごみを出さない暮らし”がもっと大事なんですよ。

ぜひ一度海に来て、どんなごみがあるか見てほしいです。実際に見ると、ものを大事に使おうとかなるべくごみを減らそうっていう意識が自然に生まれてくると思います。海に落ちてるのって、ごみだけじゃない。海の現状を自分の目で見て、何かに気づいたり、行動のきっかけになったらうれしいですね。



世界で起きている「海洋プラスチック」の問題

生活のあらゆる場面で利用されているプラスチック。多くのプラスチックは使い捨てられ、利用後きちんと処理されずに、最終的に海にたどり着きます。この海洋プラスチックが今、世界中の海を汚染し、生き物たちに深刻な影響を与えています。

美しい海を未来につなぐためには、1人ひとりの意識と行動が欠かせません。例えば、プラスチック製品の使用の見直しや、マイバッグやマイボトルを持ち歩いたり、ごみの分別を徹底したり身近なところから海を守る第一歩が始まります。自分ができるところから取り組んでみませんか。

